

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4072000336 | | |
| 法人名 | 医療法人 幾嶋医院 | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆとり庵 | ユニット名 | |
| 所在地 | 福岡県柳川市田脇760番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年2月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年1月18日 | 評価確定日 | 平成26年2月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初から利用者様達ご自身で書き記された「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という言葉を、昨年利用者様の入れ替わりもあり新たに書き直しを行って皆の集まるダイニングの壁に貼り毎日全員で読み上げながら胸に刻んでいる。医療との連携を取り、スタッフが観察したことを医療側に毎日二回報告している。食事の面でも薄味を心がけ糖尿病食や貧血、低体重等個人の状態に合わせた味付けや食事形態、食事内容にして注意を払い、健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

柳川市にある“ゆとり庵”は幾嶋医院と同じ敷地内にあり、24時間体制で医療連携が図られている。ホームの名前の通り、日々の生活には“ゆとり”があり、ホームの庭の芝生にベンチを置き、日光浴や団らんの時間を過ごされたり、お茶も楽しませている。天気の良い日は散歩に出かけ、四季折々の花見(桜・ひまわり・ゆり)にも行かれている。食事への配慮も続けており、施設長と栄養士が献立を作成している。“うなぎ”などの郷土料理と共に、毎月、ご当地メニューを採り入れており、沖縄のメニューの時には、食事中に沖縄の音楽を流している。毎月1日には、お赤飯を炊いており、月日を忘れない取り組みも行われている。職員の自宅で採れたザボンの実を浮かせてザボン湯にしたり、家族から頂いた柚子で柚子湯を楽しませている。「ご利用者から教えて頂いている。ご利用者がおられるから楽しく過ごせる」と語って下さる職員の思いが優しく、「ご利用者の温かい便を手を受けた時、“生きている証”を体験させて頂き、感謝を感じている」と言う職員の思いも伺い、“一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう”という理念が、深く実践されているホームである事が真に伝わってくるひと時であった。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|--|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の祭りや防災訓練、運営推進会議などで来ていただいた方に意見を伺ったり、庵内の様子を見ていただいている。また、本現業や彼岸参りをしたり梅の木街道の接待を受け、その後梅の実ちぎりに参加したりと地域との交流を深めている。 | 「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」と言う理念を、ご利用者も唱和して下さっている。リハビリを続け、歩行ができるようになった方もおられ、ご本人の気持ち(人生の喜怒哀楽)に寄り添い続けている。先輩職員の姿勢から学ぶ事も多く、職員のアイデアも増えている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域での行事、子供神輿や梅の実ちぎり、花見、地域公民館文化祭、地域の敬老会、彼岸参り等利用者も参加し楽しんでいる。 | 地域行事が毎月行われている。昭代地区の運動会の応援に参加したり、七ツ家地区の秋祭り子供神輿や風浪神社秋祭り、芸能大会、近隣の寺の花祭り等にも参加し、地域の方との交流を楽しまれている。幾嶋医院ふれあい祭りでは、ご利用者が赤い法被を着て参加し、水天宮の子ども囃子なども登場し、皆さんも喜ばれた。 | 地域の方や子ども達がホームに来られる機会も増え、ご利用者の楽しみとなっている。子供会にも声かけし、遊びに来て頂く機会を作ると共に、暖かい時期には、小学校の登下校の見守りを再開する事も検討している。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所のイベント、お祭り、防災訓練、地域運営推進会議等は地域の方にも案内をし、参加してもらっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者やスタッフの移動、現状報告、行事やヒヤリハット、インシデント、事故報告、認知症に関する話などについて具体的に話し、質問に答えたり、意見を伺っている。 | 年6回開催し、ヒヤリハット報告も丁寧に行われている。転倒予防や認知症の勉強会も行われ、参加者の方からも「情報不足の所があるので、認知症専門施設として窓口になれるような仕組みが欲しい」などの意見も頂いた。地域情報も頂き、有意義な会議となっている。情報交換された内容は議事録に残している。 | 今後も開催時間や方法(参加される方にとって学べる内容など)を検討し、出席者を増やしていきたいと考えている。ご利用者の様子もわかるように、リビングでの開催も予定している。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事故報告、運営推進会議で連絡を取っている。 | 夜の運営推進会議にも市の方が参加して下さい、他のホームの取り組み情報を教えて下さっている。認知症サポーター養成講座の講師依頼があり、管理者が講演を行ったり、キャラバンメイトで地域包括や市役所との交流もしている。中学校からの体験学習の受け入れも続けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎年最低1回は身体拘束についての内部研修を行い、外部研修後は伝達講習を行っている。入浴時に不穏な利用者がおられる時は見守り不足になる為許可を取り、玄関の施錠をする時がある。 | 日中は玄関の鍵を開けており、職員と一緒に外の散歩を楽しまれている。自由に外出して頂くために、両ユニットでの見守りを強化しており、家族にもリスク説明をしている。ご利用者の不安などに寄り添い、ゆっくりと手のマッサージを行う事で、穏やかな表情になられる方もおられる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止関連法については毎年最低1回は内部研修を行い知識の確認を行っている。また、コンプライアンスルールを作り、掲示して新人教育の際には必ず教えるようにしている。管理者は不定期に庵内を見回り言葉遣いやケアの仕方、利用者の状態などを確認している。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の制度について毎年1回内部研修を行っている。活用する際には管理者はその必要性を職員に説明し理解させている。 | 管理者が社会福祉士でもあり、パンフレットを用いて職員に研修を行い、2月の会議の時にも人権研修が行われた。家族には、入居時に制度の説明を行っており、成年後見制度を利用している方もおられる。後見補佐代理の方とも情報交換をしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分に時間を取り、契約内容を理解してもらうように努めている。また質問や疑問、要望に関してはいつでも受け付けていることもお知らせしている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 公的な相談窓口を契約書に明示し、口頭でも説明している。年2回家族へのアンケートを取っており、要望があれば検討し運営に反映させている。 | 理念にも「家族とのつながりを大切にします」という言葉があり、家族が敬老会の出し物をして下さる方もおられる。面会時等に「食事」や「掃除」などの要望を頂き、主治医にもアドバイスを頂きながら日々のケアに活かしている。面会が少ない方にも、誕生会や花見外出の案内状を出し、交流を増やすための取り組みを続けている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回の会議の場や日常的に意見を聞くようにしている。 | 職員からの意見を大切にしており、日々の業務に関する意見も多い。人員補充に関しても前向きに取り組み、退職した職員と連絡を取り、炊事担当として働いて頂いている。日々の業務がスムーズに行えるように担当者（在庫係）を決め、オムツなどの補充や、段取りができていくかを確かめ、習慣づけるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回査定があり、管理者や職員の勤務状況を把握し、各自が向上心を持てるよう賞与や時給を個別に査定している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 勤務時間が大幅に増えすぎないよう人員の確保をし、残業にあたっては残業指示書を書きサービス残業にならないようにしている。 | 20～60歳代までの男女の職員が勤務している。採用時は、「ゆったりとした人」でホームの環境に馴染める方や「向上心のある方」なども大切にしている。採用後は、パソコン・和裁・畑仕事・塗り絵・切り絵・料理など、職員の得意分野を發揮して頂いており、子育て中の方には、勤務時間の配慮も行われている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 理念にもあるように「人として愛され」ることを常に念頭に置くよう指導している。 | 管理者や介護支援専門員は、日々のケアやミーティング等で、「ご利用者を自分の肉親だと思って接してください」と伝えている。健康管理にも重点を置き、良く観察をするように伝えている。コンプライアンスルールも作り、「言葉かけ」などの具体的なルールが明記されており、気になる言動が聞かれた時は注意が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年最低1回は全員外部研修を受け、又その伝達講習を行うこととしている。又法人内で各部署交代で事例検討会を行い発表している。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会に入会しており、研修の参加や地区内の事業者との交流を行っている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族やゆとり庵入所前の施設、病院等からアセスメントや担当者から直接情報を集め準備を整えて本人から要望を聞いている。また、声掛けを行い、利用者の言葉を傾聴し、談話しながら関係づくりを行っている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居の申込みや見学に来られた時から困っていることや不安など相談に乗り、契約時、入居後も面会時に不安の無いよう利用者の状態を報告している。職員も家族と談話する事で関係が出来るので挨拶や会話を心がけている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者情報を検討し必要な支援がグループホームではなかった場合は他の事業所を紹介、助言している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来ることは手伝ってもらい一緒に仕事し普通に感謝の言葉を述べ、一緒に同じ食事をとっている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に現状報告を行い、ゆとり庵で困っていることを家族の協力で解決することもある。面会時にはお茶を出すくらいで家族水入らずで過ごしてもらう。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力も仰ぎながら機会があれば連れて行ってもらっている。また、昔なじみの場所にはドライブで連れて行くこともある。 | 家族と一緒に美容院に行かれる方もおられる。巫女さんだった方は天満宮時代の話が盛り上がり、天満宮へのドライブもしている。洋服の会話から、以前勤務していたデパートの話に発展する事も多く、日々の会話の中で、仕事や家族構成などの生活歴を把握するようにしている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う者同士は席を隣にすることで会話も弾み、洗濯物たたみ等家事手伝いも協力してやってもらっている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 殆どが死亡退所であるが退所後も家族が訪ねてこられ本人のことを懐かしく話題にされることがある。又、毎年お菓子を送って下さるご家族もおられる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 散歩の好きな利用者には付き添って敷地内を一周したり、飴の好きな利用者には家族了解のもとおやつに飴を提供し、自分で近くの薬局への買い物に付き添ったりしている。 | 家族からは「お任せします」と言う言葉も多いが、要望を聞く機会を作るようにしている。入居前の施設情報を収集すると共に、家族や主治医との面談にも立ち会い、ご本人の状況把握に努めている。意志疎通が難しい方は、表情や行動から気持ちを汲み取るようにしており、得られた情報はアセスメントに記録している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一緒に生活していく中で気づいたこと、気になったことは家族面会時に確認することによって新たな情報となる事がある。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 小さな変化、気付いたことなんでも記録に残しましたスタッフ間で口頭で現状報告しあい把握に努めている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月の会議の中で骨折後の利用者のリハビリや介助の仕方、かかわり方など一人一人の現状に基づき主治医、本人の意見を参考に計画作成している。 | 計画には「トイレ排泄」等、具体的な目標が作られ、「家族との外出支援」「配膳・下膳」「洗濯物たたみ」「畑仕事」などの役割も盛り込まれている。24時間のケア内容を記載するために、3表を活用していく予定であり、担当者会議の日を決め、家族への説明もしていく予定にしている。できる役割を見極め、待つケアを続けている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録にその日の気づきを毎日記録している。毎日の午礼時や毎月のケア会議で情報を共有したり問題点を検討しあったりしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 認知が進み錠剤を呑みこめなくなった利用者には薬剤師に安全性を確認の上、粉碎して服用させることもある。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域運営推進会議時に委員の方々に写真を見てもらったり、祭りや防災訓練時などに顔を見てもらっている。散歩の時にはこちらからあいさつし話しかけて出来るだけ顔を覚えてもらっている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時に主治医と面談を行い、十分に説明を行い、質問を受けている。状態に変化が見られ、主治医の説明が必要な時はその都度主治医より説明がなされている。 | 院長先生との情報交換は“ドロップボックス”を活用し、随時、情報共有ができています。毎月の会議には院長先生や薬局の職員も参加し、医療面やケアに対する指示を頂いている。週1回の往診結果の報告の仕方も家族と話し合っており、受診内容の共有もできています。受診時に、院長先生と家族がお話する機会もある。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職場内の看護師と訪問診療、受診の報告や申し送りのノートを使用し連携を取っている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 近隣の病院や退院後の受け入れ先の問い合わせがある時などに互いの情報交換を行ったり両者の受診時に情報交換をしたりと関係づくりに努めている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人には知らせていないが、家族には主治医からの説明と同時に介護についての説明を行い、同意と協力をお願いしている。 | 入居時に“終末期の方針”を説明し、ご本人や家族の意向を確認している。「最期までここで…」と希望される方ばかりで、この2年で5名の看取りケアが行われた。家族も、ご本人が好きな果物を持参下さり、食事介助もして下さった。自宅から着物を持参し、看取り後に家族が着せて下さった方もおられる。24時間体制で管理者(看護師)と院長先生が駆けつけて下さり、職員の安心になっている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 会議時にヒヤリハットやインシデント、事故報告の記録を検討し緊急マニュアルを見直し、応急手当など確認し合っている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に防災訓練を行い、その都度反省点を挙げよりスムーズに避難できるよう検討、努力している | 年に2回、避難訓練を行っている。25年6月には運営推進会議の時に、消防署、消防団、地域の方と夜間想定で訓練が行われた。誘導時に混乱される方をおんぶして避難する姿も見られ、誘導所要時間の測定も行われた。敷地内の医院や薬局への協力依頼も行われ、災害に備えて、缶詰や乾パン、水等を準備している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 話しかけの言葉遣いは親しみが感じられる程度には方言等使用している。また、幼児語の廃止や年長者に対するような言葉かけを心がけている。 | かつて教師だった方には、「〇〇先生」とお呼びする等、馴染みの呼び名で呼ばれている。「個人情報を守らない・言葉かけに配慮する」などの指導が行われ、「居室でおむつ交換する時にも必ずドアを閉める」と言う、基本的なケアの徹底も行われている。入浴時等はタオルを前に当てる等、羞恥心への配慮も行われている。 | 時に声が大きくなったり、他のご利用者の前で報告をする場面が見られている。今後も引き続き、「自分がその立場になったら」と言う思いでケアが行えるよう、勉強会なども続けていく予定にしている。 |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 誕生日には本人の好きなものを聞き昼食に取り入れている。レクレーションにしたいことを聞き行うようにしている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日中でも休みたいとの希望があれば居室で休んでもらったり、起床時間が遅い利用者には朝食を合わせて提供したりしている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で出来る利用者には好きな服を着てもらうようにしている。出来ない利用者には好きな服を聞きながら服を決めている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | もやしの下ごしらえや野菜の皮むきなど出来ることは手伝ってもらっている。食事の次わけや配膳、下膳、後片付けもしてもらっている。職員も混じりテーブルの好きなところで食べてもらっている。 | 施設長と栄養士が献立を作成している。畑の野菜を収穫し、ご利用者が“できる事”をして頂いている。“がめ煮”や“うなぎ”などの郷土料理と共に、毎月、ご当地メニューを入れ、“きりたんぼ”“南部煎餅汁”などが作られ、沖縄メニューの時には食事中に沖縄の音楽を流している。ラーメンの出前も楽しまれている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 主治医、管理者と話し合い、食事量や水分量を調整している。水分が入らない人にはミルクゼリー等作り補っている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分で出来る利用者には洗面所に誘導してもらっている。自分で出来ない利用者、拒否のある利用者は液体歯磨きでうがいしてもらっている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のチェックを行いパターンを掴み声掛けを行っている。夜間もなるべくトイレ誘導を行っている。 | 日中は布パンツの方もおられる。排尿量が多い時間帯を把握し、個別の誘導も続けており、トイレで排泄できた時の職員の喜びも大きい。夜間も睡眠を妨げない程度にトイレ誘導し、おむつの使用頻度を減らしている。失禁時はさりげなく声かけし、素早く取り替えを行っている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の利用者には腹部マッサージを行ったりバナナやサツマイモなど繊維質の多い食物を摂ってもらっている。水分も十分に取ってもらうよう心掛けている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には日時が決まっているが、その時の状態によりきめられた時以外でも入浴、シャワー浴、部分浴、清拭を行っている。 | お風呂が好きな方が多い。入浴剤と共に、季節に応じてザボン湯、柚子湯、菖蒲湯等を楽しまれている。入浴を拒まれる場合も声かけを工夫し、別のご利用者と一緒に風呂場に行き、一緒に入る等の対応もしている。乾燥対策の為に、石鹸の使い方にも気をつけている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼夜逆転にならない程度に、臥床したい利用者には臥床してもらうが、食事やおやつ時は離床を促している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人一人の薬に関しては、薬剤情報ファイルにて理解し、確認し合っている。また薬が変わった時には看護師に確認しその後の変化に気を付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 各利用者の能力に合わせて家事手伝いなどしてもらい、感謝の言葉を掛け、役に立っている、必要とされていると感じてもらっている。誕生会やお茶会、クリスマス会やお正月のお祝いの会を開き、楽しんでもらっている。 | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物がしたいとの要望があれば買い物に付き添っている。ドライブに行きたいとの希望では人員の都合がつけばお連れしている。 | ホームの庭の芝生にベンチを置き、日光浴や団らんの時間を過ごされたり、お茶を楽しまれている。天気の良い日には散歩に出かけ、四季折々の花見(桜・ひまわり・ゆり)にも行かれている。佐賀空港で飛行機を見学したり、ゆめタウンでの買い物も楽しまれている。柳川市内の喫茶店で外食する事もあり、満開の桜の下でお弁当を食べたり、かんぼの湯では、お雛様と“さげもん”を見に行かれた。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理できる利用者には貸し借りをしないという条件で少額の現金を持たせている。希望があれば付き添って買い物に行く。レクの一環として店に行き、自分の好きなおやつを選んで買ってもらう。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の理解を取り、希望があれば電話をかけてもらっている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やリビングに季節の花を飾ったり、置物を置いたり、壁に季節の花をあしらった作品を飾っている。 | 両ユニットで、台所やリビングのレイアウトが異なっている。窓からは敷地の庭が見え、四季折々の自然を感じる事ができる。リビングは床暖房であり、昔話から童謡や唱歌を歌ったり、職員との会話が弾んでいる。廊下の壁には、職員手作りの飾りつけをしており、ご利用者も楽しまれている。花粉症対策やインフルエンザ予防も兼ねて、空気清浄器付の加湿器が購入された。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングや居室で仲の良い利用者同士で話ができるよう努めている。逆に不穏な時は他の利用者から離して落ち着いてもらっている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ馴染みのものを持ち込んでほしいと要望するがあまり持ち込みはない。寝ながらテレビを見る癖のある利用者はテレビを持ち込まれた。 | ベッドやカーテン、照明や収納はホームの備え付けであり、入居時には家族に協力して頂き、自宅で使っていたタンスや座イス、鏡台、家族の写真など、馴染みの物を持ってきて頂いている。散歩の時に積んだお花を部屋に飾ったり、ご本人への手紙も飾られており、思い思いのお部屋となっている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個室と共用の部分があるが、居室はプライバシーを尊重し、出来るだけ自分の好きなようにしてもらっている。散らかった時は利用者と一緒に整理したり了解を得て片付けている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|--|----|---|--|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |